

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170400523		
法人名	特定非営利活動法人ウエルネットぎふ		
事業所名	ロングステイホームぬくもり		
所在地	岐阜県羽島市竹鼻町新町2504番地1		
自己評価作成日	令和4年11月1日	評価結果市町村受理日	令和5年1月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/1/index.php?act=on_kouhyou_detail_022_kani=true&g_yosyoCd=2170400523-00&SerViCeCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市橋町1丁目3番地		
訪問調査日	令和4年12月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、デイサービスを併設しており、通常はデイサービスの利用者と交流しながら、レクリエーションやイベントを行ってきましたが、コロナ禍になって外部の人と交流はほとんど出来なくなっています。そのような中でも、少しでも楽しみや気分転換を図るため、作品づくりを毎月楽しみに取り組んでいます。作る前から何が良いか、何をやるかを職員と一緒に考え、作業中は完成を楽しみに取り組んで頂いています。その人の能力や体力に合わせて本人が良いと思うものを尊重して完成させたものを壁や廊下に展示して、度々見ながら「いいね」と言って満足されています。また、非常事態宣言が緩和されたところを見計らい、ドライブや散歩など季節を感じながら気分転換できるよう配慮しています。今年と来年には100才を迎える方がおられ、お祝いをするのがとても楽しみです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員間で話し合っ、日常生活の中に出るだけ多くの利用者の希望や願いを取り入れていきたいと取り組んでいる。利用者が地域の風習のみそぎ団子を食べたいと言われて毎年6月30日に出している。かかりつけ医の受診は家族が同行しているが、都合の悪い場合は職員が同行し結果を伝えている。家族からかかりつけ医の往診を希望された場合は受け入れている。入浴の順番や湯温、同性介助、毎日の入浴など利用者の希望に合わせている。家族から100歳の誕生会を行いたいと要望があり職員間で話し合っ家族と一緒に誕生会を行っている。利用者や家族の気持ちや思いを尊重し、安心して生活が送れるように取り組んでいる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当法人は、2000年にNPO化し20年目となります。地域に必要とされる事業所として、「利用者の尊厳を守り、その人らしく生き生きと暮らすことを支援する」を理念として日々精進しています。	利用者の気持ち理解できるように高齢者の疑似体験学習を行い日常のケアを振り返っている。利用者の要望や願いを日常生活に取り入れて支援することを大切に理念が実践できるように取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナの影響で、日常的な交流は殆どとれていません。近所に小学校があるので、交流できるようになったら職場体験など実施できればと思います。	コロナ禍前は音楽療法やボランティアを受け入れて交流していた。天気の良い日に駐車場で運動やお茶を飲んでいる時、事業所近くの寺院にお参りに出掛けた時に近所の住民と挨拶を交わして交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	旧銀行の建物を利用した施設で、地域の方にはなじんで頂いています。コロナの影響がなければ地域の方にもご参加いただけるようなイベントを開催したいと考えます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年も、書面会議が中心でしたが、毎回ご意見や感謝の言葉をいただいています。感染対策の上、面談できる機会もありましたが、フロアに入っていただけなので、写真スライドで様子をお伝えできました。	新型コロナウイルスの感染状況を考慮しながら集合や書面で会議を開催している。事業所の活動状況を報告し書面等で意見を聞いている。感染予防や面会、外出について意見が出され職員間で話し合っており取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者とは、日頃から連携をとっています。今年も、コロナの濃厚接触者が出ましたが、保健所の指導もあり拡大を防ぐことができています。	書類作成について聞きに行った時や事故報告書を提出に行った時に市の担当者や情報を交換している。市が主催する研修会に参加して情報を交換している。地域包括支援センターの職員が認定調査に来所した時に情報を交換している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての説明書を作成し、マニュアルに基づいて毎年定期的に研修を行っています。現在の利用者は、身体拘束の該当者はいません。玄関が1Fにあり、1Fデイサービスの休みには防犯上施錠をしています。	年間計画を立てて定期的に研修会を行っている。会議では日常のケアを振り返り、接し方や言葉遣いなど具体的に話し合っている。管理者は、言葉使いや態度など気付いた時はその都度注意しているが、定期的に委員会を開催出来ていない。	身体拘束について、職員間で情報を共有し、身体拘束のないケアに繋げるためにも定期的に委員会を開催して欲しい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についてのマニュアルを作成し、これに基づいて研修を実施しています。職員にそのような行動が見られた場合には、個別に指導しています。		

ロングステイホームぬくもり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度について研修を実施しています。現在のところ、必要性のある利用者はいません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、ご家族と面談し説明を行っています。必ずご質問がないか、後からでも疑問があれば連絡を頂くよう説明し、ご理解を得ています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関横にご意見箱を設置しています。ご家族との連絡は電話等で密にとるようにしており、直接ご意見を伺う機会を大切にしています。また、運営推進会議ではアンケートを頂き、都度会議で取り上げております。	面会や受診に家族が来所した時に利用者の近況を伝えて要望や意見を聞いている。毎月、居室担当の職員が身体の状態や生活状況を書面にして家族に送付している。家族よりお参りや法事に連れて帰りたいと要望があり新型コロナウイルスの感染状況を見て受け入れている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月全体会議と、ミーティングを開催しており、職員の意見や提案を取り入れています。また、必要時には個別に面談を行い、現場の意見や主体性を大切にしています。	管理者は、相談しやすい関係づくりを心掛け職員の表情を見て声を掛けている。100歳になる利用者の家族から誕生日会を行いたいと聞いた職員が発案して、職員間で話し合い、家族と一緒に誕生日会を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員のキャリアパス制度を利用し、各自の年間目標を設定してもらい定期的に評価しています。また、それぞれの個性に応じた勤務の希望を取り入れ、少ない職員でも協力できる体制を作っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月処遇改善研修を実施し、なるべく現場の状況に応じたテーマを採用しています。時間外にならないよう、メリハリのある研修としています。また、職員の能力に応じ個別補習も行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で研修や交流はZoomを利用することが多いですが、なるべく外部研修に参加できるよう勤務の調整を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	誰でもはじめは環境が変わり、不安や戸惑い、要望があると思うので、就寝前に居室に伺い傾聴し安心頂いています。また、ご家族からの情報や希望を参考にしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居するにあたり、ご家族の不安や要望を伺い、どのような支援が必要か具体的な話をするようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の生活を把握し、趣味や得意なこと等施設でできることを一緒に考え支援しているようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と一緒にできることは行動を共にして家族のような関係を築くようにしています。話し相手、洗濯物を置く、食器を拭く等何気ない行動に寄り添って支援しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様との絆を大切にし、積極的に連絡をとっています。コロナの緊急事態解除などのタイミングでは、少しでもご面会いただけるよう声掛けし、短時間の面会の機会を大切にしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍での面会は困難ですが、病院受診などの外出時に、近くの公園を回ってきたり、地域での生活を忘れないで欲しいと願っています。	コロナ禍前は利用者の行きつけの店と一緒に掛かっていた。事業所近くの馴染みの寺院にお参りに出掛けている。暑中見舞いとして家族に手紙や塗り絵を出している。利用者から要望があれば電話を掛けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個室での生活ですが、日中はフロアで過ごす時間を大切にし、集団レクや作品作りなどに励みながら、手伝ったり声掛け合う場面を大切にしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今年のサービス終了者は看取りで、4日前には夫と歯医者に行くなどお元気な姿が最後の面会となっていた。グリーフケアではご自宅にお参りに伺った際に、感謝の気持ちを頂きました。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話の中で利用者の意向を確認し、把握に努めています。コロナ禍で、外食はできないため、時には食べたいものを聞いて答えるようにしています。	入浴時や夜間など一対一になった時に思いや意向を聞いている。利用者から「ちょっと聞いて欲しい」と言われた時は居室で話を聞くこともある。困難な方には利用者の表情やしぐさから意向を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス計画書にこれまでの暮らし方が記載されているので、居室の飾りつけを工夫して寂しくないように努めています。ホームで作った作品を飾ったり、家族やペットの写真を飾ったりしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	iPad記録を使用しており、カルテファイルを開かなくても、毎日の利用者の支援経過の記録、バイタルサインや食事量などの情報は全職員が共有して活用しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティングで、利用者の問題点などを話し合い、職員間の共通認識としてサービス計画に反映するようにしています。	家族が面会や受診に来所した時や電話で利用者の状態を伝え計画への意向を聞いている。職員は日常的に気付いたことを作成担当者伝えていく。毎月のミーティングで話し合い職員の意見を反映し現状に即した計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個別記録を記入し、毎朝の申し送りや連絡ノートを活用して全職員が情報の共有を図っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	時折、不穏や精神状態が良くない利用者があった場合は、状況に応じて、1Fに降りたり近所の散歩などで気を紛らわしたり、個別の対応をとっています。時には家族の協力をお願いすることもあります。		

ロングステイホームぬくもり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で外出が出来ない中、タイミングを計って近所の散歩や神社へのお参りなどに出かけ、季節感を味わっていただいています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1度の往診があり、常に主治医との連携が取れています。	かかりつけ医の受診は家族が同行している。家族の都合が悪い場合は職員が同行している。利用者が希望するかかりつけ医を家族が依頼して訪問診察を受けている。かかりつけの歯科の受診は職員が同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師による定期的健康管理と、デイサービス兼任看護師が2名いるので、何かあればすぐ見てもらえ、相談しやすい環境です。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	異常時には看護師から主治医への連絡がスムーズで、入院も円滑に行えます。また、地域の市民病院等も連携を密にとれる体制で安心しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、重度化した場合の意向を確認しています。終末期は家族の希望があれば、ホームで看取りを行います。今年も1名の看取りを、ご家族様と連携をとりながら行いました。	状態の変化に伴い家族の意向を確認している。医師が家族に説明し職員は情報を共有している。介護職員に看護師より看取りの心構えや個々の対応について説明している。家族から希望があれば面会や宿泊することができる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを作成しており、異常時や急変時には、看護師による的確な指示ができるように定期的に研修を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルを完備し、定期的に避難訓練を行っています。今年は久しぶりにデイサービスとの合同訓練を行いました。地震・火事・水害の訓練と研修を行っています。	併設事業所と合同で避難訓練を行い、運営推進会議で報告している。食糧や水など備蓄している。近所に避難訓練の協力をお願いしているが協力が得られていない。夜間を想定した訓練も行われていない。	運営推進会議や関係機関に相談しながら地域との協力関係の構築や夜間を想定した訓練を実施して欲しい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様に対しては、人生の先輩として日頃より言葉づかいに気を付けています。排せつや入浴時にはカーテンや恥かしさを意識した対応で利用者の尊厳を守ります。	トイレに誘導する時は羞恥心に配慮し、小声やジェスチャーで声を掛けたり、安全の配慮をしつつ扉の外で見守ったりしている。職員にプライバシーに関するアンケートを行い尊厳やプライバシーの研修を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で利用者の意思を汲み取り思いや希望に沿えるように支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	タイムスケジュールはありますが、個々の利用者の状態を把握し、どのようにしたら喜んで頂けるかを聞き支援に繋げています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性の利用者が多く、身だしなみやおしゃれには大変気を使われます。入浴日前日には洋服を利用者と一緒に選び準備します。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立メニューに不満のときは、食べたいもの話題で盛り上がります。月に1～2回程度、希望の麺類やお好み焼きを一緒に作っています。食器拭き等は、自ら率先して行う方もいらっしゃいます。	利用者から食べたい物を聞いて味噌煮込みうどんやそうめんなどを提供している。利用者は調理の下ごしらえや食器拭きなど手伝っている。地域の風習で毎年6月30日にみそぎ団子を食べ懐かしんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者個々の食事摂取量や水分量を毎日把握し健康管理に努めています。また年中を通し夜間の水分補給ができるようペットボトルにお茶を入れて提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝、昼、夕の口腔ケアの実施ご自身ができない利用者には介助し清潔保持に努めている。義歯などに不具合がある時はご家族様に連絡し歯科受診をしていただいています。		

ロングステイホームぬくもり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の状態に応じ、昼間は定期的トイレ誘導し、夜間は転倒防止の為 ホータブルトイレを用意し、利用していただいています。	希望に応じて日中はトイレに誘導している。立位が困難な利用者には2人で介助している。チェック表を確認しながらパターンを把握して職員間で話し合いながら維持できるように取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表にて毎日の排便回数や便の状態を管理しています。便秘ぎみの利用者には水分摂取を多くしたり、薬が必要な場合は薬にてコントロールしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	楽しみの入浴を安心、安全にできるよう機械浴で実施しています。毎日入りたい人には入っていただく等、本人の意思を尊重しています。	順番や湯温、同性介助、毎日の入浴など利用者の要望に合わせている。職員は入浴剤やゆず湯など楽しめるように工夫している。入浴後に好きな飲み物を飲んでいただいている。嫌がられる利用者には時間や日を変更している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	13時から14時までは居室にて自由時間を過ごされており、ほとんどの利用者がベッドで横になっています。夜間は睡眠を優先してパット交換を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理は利用者にとって必要不可欠なものであり、飲み忘れや誤薬がないように服薬表にて二人が確認してサインしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の「やらせて欲しい」という希望を尊重し、洗濯たみや食器拭き等の役割を張り合いや楽しみとして行っていただいています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	今年も新型コロナの影響で家族との外出などが出来ませんでした。面会は県の指示に従い、感染対策を行った上で予約制・短時間で行いました。状況が許すときに、ドライブや散歩で気分転換を図りました。	事業所近くの公園まで季節の花を見にドライブに出掛けている。家族から要望があり、ひ孫の入学式の日には職員と自宅まで出掛けて家族と一緒に写真を撮っている。急に外出を希望される場合は職員と一緒に散歩に出掛けている。	

ロングステイホームぬくもり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	今はコロナ禍にて外出買い物などは行っていません。外出できる状況になれば、喫茶店や買い物に同行し金銭感覚の保持に努めたいと思います。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が自ら電話したり手紙のやりとりする際はご家族の了解を得てからにしています。今年は家族面会が思うようにできなかつたため、全員で家族に暑中見舞いの絵手紙を書いて送りました。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	旧銀行の建物で、施設のレイアウト上洗面所や厨房から利用者の状況が分からないので、特に夜間は不安な面があります。共有の壁には利用者の作品が掲示されており賑わっています。	利用者が居心地よく過ごせるように温湿度に気を付けている。廊下に利用者が作成した作品を飾り会話のキッカケとなっている。塗り絵が好きな利用者の作品を飾り毎日眺めている方もいる。職員は、様々な話題を提供して利用者同士の会話が盛り上がるように心掛けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間での一人一人の居場所はありますが、状況により机の配置を変更して気分転換ができるように工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はご家族様が談話の為にいられても十分な広さがあり、テーブルや家具などを持ち込み思い思いに過ごされています。また作られた作品を部屋に飾って楽しんでおられます。	ラジオや手鏡など使い慣れた物を持って来ている。枕元にお気に入りのぬいぐるみを置いている方もいる。母の日や誕生日、クリスマスに家族から送られた生花やカードを飾っている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内においてはトイレや居室の名前など目印や張り紙などで誘導の工夫をしています。		